

手バスにも乗らないで、しばらく競技場のかげにかくれ、くやしなみだを流して
いました。

その日からは、もつときびしく、もつと長いきよりを走るようになりました。
高校二年生の春の大会ではみごとに入賞し、県大会や東北大会にも出場して活
くするようになりました。

円谷選手はいつでも、努力・忍耐・根性・そして最後までつらぬくことを実行
するようになっていました。陸上部に入ることが許されたとき、お父さんは「と
ちゅうでやめるな最後までやることだ。」と言って、いつまでも円谷選手の目をみ
つめていたことが心の中に残っていて、苦しいときに思い出しました。

走ることに希望のでてきた円谷選手は、友だちの記録や成績もあまり気になら
なくなりました。苦しみながら努力すると自分で物がよく見えてくることに気が
ついてきました。くやしい思いをするのがいやなら、もつと自分で努力して勝て
ばいいと思うようになりました。